

自尊心に関する縦断事例研究

- 7年後の進路決定 -

井上信子

(お茶の水女子大学 人間文化研究科)

問題と目的

井上(1986)は1984年に小学校5年生を対象に自尊心に関する調査を行ない、自己評価を組みあわせて質的に異なる4つの自尊心タイプを見いだした。それらは、実績が伴い「自信」のある高得点HH群(アルファベットの左:自己評定,右:他者評定)、防衛機制による「自己膨脹」的な高得点HL群、無力感を伴う「自己矮小」的な低得点LL群、「自己信頼感」はあるが要求水準が高いために自己評価が低いLH群である。

さらに、それらの自尊心の質的差異が失敗課題の対処に際していかなる違いをもたらすかについて検討した。その結果、HHはどのようなストレス条件下でも失敗を成功に変えようと積極的な構えをみせるのに対して、LLはつねに失敗のまま放置すること、HL、LHは条件により反応が変化することが示唆された。

次に、児童期における自尊心の特質が固定的、本質的か、変化するとしたらその要因は何かを問うことを目的として引き続き縦断事例研究を行った。第一報(1988)では、中学2年時(3年後)における「自尊心と人格発達」の関連を窺い、児童期から思春期に至るまでHHは自信を維持し、LLは否定的自己をひきずり、HL、LHは複雑な変化を示すことを明らかにした。さらに第二報(1990)では、中学3年時(4年後)における「自尊心と高校進路決定」の関連を検討した。ここでは、児童期にHHであった者は高校の進路選択においても、親や教師の受容、支持を受けやすく、良好な成績を手掛かりに積極的に意志決定しているのに対し、LLであった者は他者の援助を得にくく、不安に苛まれて偏差値とは無縁の志望校を選択し、いたずらに挫折感を深めていることが明らかにされた。そして本稿では第三報として、高校3年時(7年後)における「自尊心と進路決定」の関連について検討する。今回は特に、「自信」を特徴とするがゆえに一層、進路における純粋理想、志望、現実の進路の三層構造間の挫折が顕になり、かつ自尊心の危機的状況における主我(I)のあり様、主我と客我(Me)の関係、関係の呈示に多様な屈折が描きだされたHH型(児童期の分類)に注目してその一部を縦断事例的に報告する。

方法

1.対象:高校3年生;15名(男子7名、女子8名)。

事例分析;HH型事例, no.1,3,7(井上,1990)

2.テストバッテリーの構成:4年間次の調査を実施した。

1983年(小学5年);自尊心尺度, SCT, 集団式ロールシャハテスト(以下, Rテスト)

1986年(中学2年);面接(人格), 自尊心尺度, SCT Rテスト, TAT, 樹木画, 人物画

1987年(中学3年);面接(進路)以下同上

1990年(高校3年);面接(進路)以下同上

面接内容;園田(1980)、武内(1983)、淵上(1983)らを参考に決定した面接内容は、まず進路について考え始めた「始点」と、結論を出した「終点」の時期を確認し、次にその間の過程における、葛藤、断念、進路変更、对人的影響などについて問うものである。

3.手続き

1983年(小学校5年時):公立小学校2クラス69名に対して面接は個別に、その他は教室で一斉に行った。

1986年(中学校2年時):同一対象者に対して、自尊心尺度、SCT、Rテストを郵送し、40名の回答を得た。そのうち29名に対して面接、投影テストを行った。

1987年(中学校3年時):同一対象者に対して、自尊心尺度、SCT、Rテストを郵送したところ23名の資料が収集できた。そのうち15名に対して面接、投影テストを実施した。

1990年(高校3年時):同一対象者で電話連絡により調査協力が得られた15名に対し、面接、自尊心尺度、投影テストを実施した。

全ての調査は筆者が行ない、一人あたりの所要時間は1時間30分~2時間である。

4.分析の枠組

面接内容の逐語録を作成し、それをもとに筆者を含む3名の評定者が以下の観点から分析した。

- (1) 对人的影響源として、「両親からの受容」「教師からの支持」「友人からの共感」の有無について判定。
- (2) 不安(2種)の有無を判定、分類。
- (3) 決定のあり方について、現時点での決定のしかた、決定への構えを手掛かりに[積極的決定][解決的決定][妥協的決定]の3つのタイプに分類。

結果と考察

1.自尊心と進路決定のタイプ

決定のタイプの結果は右上表に示した。高校の進路

決定(井上,1990)までは小学校以降高い水準の達成と自信を維持してきたHH型に積極的決定が明らかに多かったが、今回は自尊心のゆさぶりが大きく決定の構えに多様性

	HH	LH	HL	LL	MM
積極的	2/6	2/3	0	0	1/1
解決的	2/6	1/3	2/3	1/1	1/1
妥協的	2/6	0	1/3	0	0

がみられる。LLは1事例のみだが、他の対象者は中学卒業就職、高校退学の状況で協力を得られなかった。

2. HH型の事例分析

事例1 女子：自尊心得点119-112-115-103*

小学校時代は学業優秀で、学級委員に選出される中心的存在。中学への移行過程でチック、家庭内暴力などの紆余曲折を経たが、中2では成績、人気とも高く自信は健在。中3時の高校進路決定の問題は、大学進学、就職まで考慮にいたれた長期計画実現への第一歩として認識され、高い目標を設定して有名私大の付属高校に入学。決定の構えは積極的。高3時の進路決定は理想と志望と現実の進路が一致して、就職の有利さ、興味の追及の理由から付属大学の希望学部へ。自分なりの目標設定、一定の計画、能動的な対処の構え、本人の納得から積極的決定。そして将来は職業婦人で、結婚相手は外交官、医者、成長株の会社員である。

しかし樹木画と人物画は、高い自尊心得点と客観的達成、面接での自信とは異なる自己像を描きだしている。すなわち鋭利で、かつ分岐の単純な枝に不自然に多く連なる実、さらにそれらを柔らかな樹冠で包囲した自己呈示は、攻撃性を隠し、内容の豊富さを飾ろうとする演技性を物語っている。しかも人物画は顔がなく、全身が輪郭だけの人間(自分を含む)の無限の連鎖であり、病的なほどの自他蔑視が彼女のIのうちに居すわっていた。これらは次のことを示唆している。すなわち彼女は理想に手が届かないにもかかわらず自己の虚像を追い続け、その過程でIは自己価値を見失い、まなざされた自己像(Me)も否定的となった。だが、それを学校名、地位の高い職業(自分にふさわしい結婚相手の)という表層性により隠蔽し、自尊心が高いかのごとくみせかけたということである。

事例3 男子：自尊心得点112-105-111-105

小学校時代は学業優秀であったが、中学2年頃から少しずつ成績が下降して学校や社会にクリエイティブに関わることから徐々に遠のく。中学3年の進路決定は小学校以来理想の高校を内申点が足らず断念することから始まった。しかし重要な他者たちの支持に恵まれて第2志望の受験に向けて自分なりの計画をたてて

実行し、納得がいつていることから積極的決定と判定。しかし、高校2年で体験したアジアへの旅で、人々のゆったりとした生き方をみて、「日本人は仕事のために生きている」が、彼らには「仕事は生きていくための手段でしかない」と気づく。そして社会を相対化し、自分の本性がいかにかに日本社会のありかたに歪められているかの認識をもつ。だが高3時の進路決定は、成績の低下から理想ははるかに遠のき、志望と現実の進路の隔りにも諦めがみられた。その過程で内面の挫折、やむない事情からの断念という不安を経験し、納得のいく決め手を欠いていることから妥協的決定と判定。

だが樹木画には、バランスのとれた三次元の構図に4分割された陰影豊かな樹冠が描かれている。これらは、知的な高さ、自己洞察、愛情欲求を表しており、敏感な感受主体の内面への沈潜が窺われた。自己劣等を確認した進路選択の過程で、IもMeもともに揺らぎが推測されるが、その図式の開示が可能で、かつ鬱になれる強さが存在している。そこに積極的な生き方の価値転換の可能性がみられ今後の経過に注目したい。

事例7 女子：自尊心得点98-100-99-94

小学校から一貫して高い成績と人気を維持し、ひかえめで情緒が安定した人格的特徴である。中学3年時の高校進学過程は、成績がボーダーであったため非常に緊張を強いられる闘いであった。しかし、最後まで志望を変更せず、両親の暖かな受容をうけて目標を達成し自我の強靭さが推測された。そして、現実吟味、計画性、納得などの点からも積極的解決と判定された。高校3年の進路決定は、興味の追及から希望学部への進学意志は堅い。理想は日本で再難関の大学だが能力を見極めた結果、志望と現実の進路は浪人しても一致させたい。それには親の反対があるが、友人が精神的な支えとなり、進路の設計的行為者としての手応えは充分で、積極的決定と判定された。結婚相手の職業は問わず、たとえ「日雇い労働者でも、自分はこの道でやっていけるんだみたいな意志があればいい」という。これは自己の進路決定への確信の投影であろうか。

樹木画は、根が力強く張り、幹の分岐から意識、無意識のエネルギー配分の適切さが推測され、充分な手ごたえをもって中2以降の複数の自己像の統合をなしとげていた。高3時の絵は過去2枚の絵に比べて、根の位置がずっと下がり無理なく目標にふさわしい現実適応が可能となったことを表している。IもMeも健康的であり内的な豊かさの素直な開示が可能であった。

*自尊心得点は左から小5、中2、中3、高3の得点で、本尺度の理論上のレンジは41~123点である。